

# 農業委員会による団地利用調整で実現した、参入企業によるソバ栽培の展開〔新潟県小千谷市〕

## 1. 地域農業の状況

○ 小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置。日本一の大河・信濃川が市の中央を流れ、その大河が生み出した河岸段丘地形が特徴。

関越自動車道や国道、JRなどの交通網も充実。

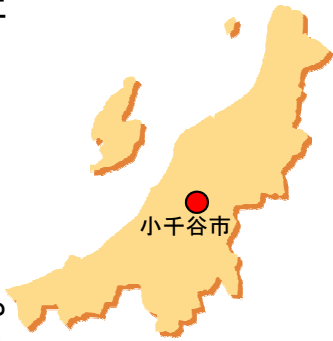
冬は豪雪に見舞われる厳しさ、その雪解け水がもたらす美しい自然や田園のなかで、小千谷特有の文化や産物が育まれ、多彩な産業活動が息づいている。

○ 雪解け水と信濃川水系からの水のめぐみをうけて稲作を中心とした農業が盛ん。魚沼産コシヒカリ「おぢや米」のほか「スイカ」、「メロン」、「カリフラワー」などの特産品がある。

○ 近年は中山間地域の畑を中心に、高齢化・担い手不足などにより荒廃農地が増加。本件の取組箇所は、10年以上も耕作されておらず、雑木等が繁茂し、獣害や病虫害などの周辺農地への影響が懸念されていた。

○ 本取組の耕作者は、鉄のリサイクル業からH23年度に農業参入し、現在は農地所有適格法人を設立し5年目。イチカラ畑の会社名のとおり、自らの重機作業で遊休農地を一から再生して畑作りを行っている。

○ 平成28年には「認定農業者」となり、地域の担い手として信頼を得ている。農業委員会と連携し、今後も地域の遊休農地を活用した規模拡大を予定している。



農業委員会による遊休農地所有者との現地立合

再生後、一面に広がるソバ畑

## 2. 荒廃農地再生利用の取組

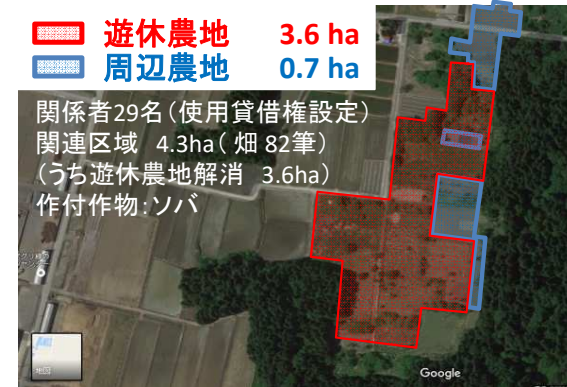
取組主体	(株)イチカラ畑	地区名	片貝・四ツ子地区
再生面積	5ha (経営面積 30ha)	取組年次	平成25年～平成29年
作付作物	ソバ	販路	首都圏百貨店、県内のスーパー・飲食店等

### (1) 農業委員会による団地利用調整

- 条件の悪い遊休農地と周辺の耕作地とを団地化し、一体的な営農を実現することで、企業ニーズとのマッチングを図った。
- 農地所有者等の理解を得るため、企業(株)イチカラ畑とともに市農林課、農業委員会、地元の農業委員等が地元説明会を開催。
- 計29名の農地所有者との調整のなかで、団地利用すると土地境界が不明瞭となる指摘があり、農業委員会が自ら現地測量・境界立合を行うなど、所有者との合意形成に尽力した。

遊休農地 3.6 ha  
周辺農地 0.7 ha

関係者29名(使用貸借権設定)  
関連区域 4.3ha(畑 82筆)  
(うち遊休農地解消 3.6ha)  
作付作物:ソバ



### (2) 企業の遊休農地解消によるソバづくりと多様な事業展開

- 無農薬栽培にこだわりソバを栽培。自社で加工し、そば粉や生・乾麺にして販売。そば粉は、新潟県内の他、東京、大阪などに卸している。
- さらに、雪室貯蔵した食品販売を展開する「越後雪室屋」への参加やそば茶などの自社商品開発に取り組むとともに、多くの人に味わってもらおうよう、年間50回以上、イベント等に参加し、キッチンカーでの調理販売を実施している。
- 地域の担い手として営農を継続するとともに、地元在来ソバ品種の復活に取り組み、更なるブランド向上を目指す。
- 平成26年度には、全国そば優良生産表彰で「日本蕎麦協会会長賞」を受賞、平成28年度には、耕作放棄地発生防止・解消活動表彰で「全国農業会議所会長賞」を受賞。

### 活用した支援策

H25～29 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)  
(再生作業、土壌改良)



そばの自社商品



生そばの調理販売